

平成22年度 第2回理事会

日 時 平成22年6月1日(火) 16:00～

場 所 特別会議室

報 告

1. 会計実地検査概要について
2. 実験廃液の事故報告について
3. 独法評価関係の今後の予定等について
4. その他

資 料

- 1-1 会計実地検査概要について
- 2-1 事故報告書
- 3-1 独法評価関係の今後の予定等について
- 4-1 主要行事(2010年4月21日～5月31日)

事 故 報 告 書

平成 22 年 5 月 21 日に本所で発生した実験廃液関係事故の状況及び講じた措置の概要等について、次のとおり報告します。

1. 事故状況

- (1) 発生場所 茨城県つくば市松の里 1 独立行政法人 森林総合研究所
研究本館北棟 3 階 積層接着研究室
- (2) 発生日時 平成 22 年 5 月 21 日 (金) 11:45 頃
- (3) 事故概要 硫酸を含んだ廃液 0.1ℓが入っていた廃液タンク (ポリエチレン製、容量 20ℓ) に、塩酸を含む廃液 0.1ℓ及び硝酸を含む廃液 0.5ℓを入れて蓋を閉じたところ、しばらくして廃液タンクが破裂し、廃液 0.7ℓが研究室内の床面に流出した。

2. 事故直後の対応

- ・ ドラフトチャンバーを作動させ、窓、扉を閉めた。また、近隣の研究室に、扉を閉め、廊下に出ないように注意喚起した。そして、汚染拡大防止のために一般空調を停止した。
- ・ 職員課からつくば市消防本部に通報した。
- ・ 管財課からつくば市環境保全課及び茨城県県南県民センター環境・保安課に事故発生の連絡を行った。
- ・ 館内放送により、窓の閉鎖及び通行制限についての指示を行った。

3. 事故の処理

- 12:25 頃：消防車が到着し、室内に流出した廃液について、消防署員が重曹等で中和作業後、パーライトで吸収処理した。
- 13:44 頃：作業終了後、消防署の調査により有害物質が検出されないことが報告された。
- 14:30 頃：つくば市環境保全課が研究室に立ち入り検査を行い、研究室内に流出した廃液は、下水等の一般地域への流出はないと判断された。

4. 事故による影響等

- ・ 事故当時、研究室内に 3 名在室していたが、けが人や気分が悪くなった者等の人的被害はない。
- ・ 研究室内に流出した廃液は、下水等の一般地域への流出はない。

5. 事故原因

廃液を分別貯留する際には、塩酸・硫酸・硝酸等の酸廃液については、一般的には同一区分とされており、当所のマニュアル (分別貯留区分) においても同一区分としているが、後からタンクに入れた廃液の塩酸と硝酸の濃度が高かったために反応が起こり、塩素ガスが発生し、廃液タンク内の圧力が上昇して破裂したものと推測される。

6. 事故再発防止のための対応

(1) 当面の対応

- ① 職員に対して、事故発生のお知らせと注意喚起を行った
- ② 硝酸については、他の酸廃液との混合はしないよう周知した。また、酸廃液やアルカリ廃液を廃液タンクに入れる場合には、濃度が 10% 以下になるように水で希釈することとした。

(2) 今後の対応

- ① 廃液の取り扱いに関するマニュアルについて、類似事故等の発生予防のために見直しを行う。
- ② 改めて、薬品取扱時の注意事項等についての指導を行う。

5/22 読売

(29) ポリタンク破裂 廃液0.7リットルが流出

(21日午前11時30分頃、森林総研の本館3階接着研究室、硫酸や塩酸を含む廃液が流出、消防本部が廃液を中和し回収、けが人なし、研究所企画部研究情報科は「通常の作業手順で処理しており、なぜ破裂したのかは分からない。原因を調べ、今後の安全作業につなげたい」としている)

5/22 東京

(22) 森林総研で廃液タンク破裂

(21日午前11時半頃、本館3階の研究室、酸性物質を含んだ廃液用ポリタンクが破裂、約0.7リットルが流出、けが人なし、研究所は「通常の処理方法と変わらず、大きな誤操作は確認できていない。原因をはっきりさせたい」と話す)

5/22 茨城

(23) 研究室の廃液用ポリタンク破裂 つくば

(21日午前11時半頃、森林総研本館3階の研究室、20リットルのポリタンクが破裂、廃液0.7リットルが床に流出、硫酸と塩酸と硝酸が混ざっていた、けが人なし、研究所と消防本部が原因を調べている。)

茨城5/22(23)

研究室の廃液用
ポリタンク破裂
つくば
21日午前11時半ごろ、つくば市松の里の森林総合研究所本館3階の研究室で20リットルの廃液用ポリタンクが破裂。廃液0.7リットルが床に流れ出した。同研究所と消防本部が原因を調べている。

同研究所によると、ポリタンクは酸を含む廃液を入れる容器として使われており、硫酸と塩酸と硝酸が混ざっていたという。当時、研究室には研究員2人がいたが、けがはなかった。

読売5/22(29)

ポリタンク破裂
廃液0.7リットルが流出
21日午前11時30分頃、つくば市松の里、独立行政法人森林総合研究所の本館3階にある接着研究室でポリタンク（容量20リットル）が破裂し、硫酸や塩酸を含む廃液0.7リットルが床に流出した。

市消防本部が廃液を薬剤で中和するなどし回収した。研究室には当時、研究員が数人いたが、けが人はいなかった。

同研究所によると、硫酸を含む廃液が入ったポリタンクに、研究員が実験で使った硫酸と硝酸を含む廃液を入れたところ、しばらくして破裂した。同研究所企画部研究情報科は「通常の作業手順で処理しており、なぜ破裂したのか分からない。原因を調べ、今後の安全作業につなげたい」としている。

東京5/22(22)

★森林総研で廃液タンク破裂 二十一日午前十一時半ごろ、つくば市松の里、独立行政法人森林総合研究所「研究本館」三階の研究室で、酸性物質を含んだ廃液用のポリタンクが破裂し、廃液約0.7リットルが床に流出した。けが人はいなかった。

同研究所によると、硫酸を含む廃液が入っていたタンクに、研究員が塩酸と硝酸を含む廃液を入れた。その後、ガスが発生して破裂したらしい。

同研究所は「通常の処理方法と変わらず、大きな誤操作は確認できていない。原因をはっきりさせたい」と話している。

主要行事(2010年4月21日～2010年5月31日)

月 日	行 事 内 容	出 席 者
4月21日(水)	第1回理事会	理事長、各理事、各監事
22日(木)	天皇皇后両陛下多摩森林科学園行幸啓御礼のご記帳	理事長
	森林管理局長等会議	理事長
23日(金)	第4回みどりの式典	理事長、企画・総務担当理事、研究担当理事
26日(月) ～28日(水)	生物多様性条約COP10記念シンポジウム	理事長(26日)、研究担当理事(26～28日)
30日(金)	日本学術会議・公開シンポジウム	理事長
5月7日(金)	フェロー授与者懇談会	理事長、企画・総務担当理事、研究担当理事
8日(土)	みどりの感謝祭	理事長
10日(月)	庁議	理事長
11日(火)	(財)農学会理事会・評議員会、シンポジウム	理事長
12日(水)	全国水源林造林協議会連合会通常総会	森林農地整備センター所長、森林業務担当理事、滑志田監事
13日(木)	第7回森林再生事業化研究会	理事長
14日(金)	筑波研究学園都市交流協議会ミーティング	理事長、研究担当理事
15日(土)	(社)日本木材学会設立記念シンポジウム	理事長
20日(木)	平成22年度全国国有林造林生産業連絡協議会・全国素材生産業協同組合連合会合同懇談会	企画・総務担当理事、森林業務担当理事
21日(金)	(社)ゴルファーの緑化促進協力会平成22年度理事会・通常総会	理事長
22日(土) ～23日(日)	第61回全国植樹祭	理事長
24日(月)	(社)林業機械化協会平成22年度通常総会	企画・総務担当理事
27日(木)	研究所会議	理事長、企画・総務担当理事、研究担当理事、林木育種センター所長、森林農地整備センター所長、林監事、龍監事
	(社)日本森林技術協会通常総会	森林業務担当理事
28日(金)	(社)農林水産先端技術産業振興センター創立20周年記念講演会	理事長
	(財)林業科学技術振興所 林業科学技術振興賞授与式	研究担当理事
5月31日(月)	(社)海外林業コンサルタント協会通常総会	企画・総務担当理事